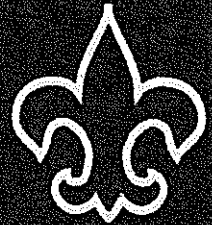




# REINANZAKA SCOUT CLUB



スカウトOB・OGの情報交換や交流の場/2000年11月18日発行

## 霊南坂スカウトクラブ

霊南坂スカウトクラブ：霊南坂教会内 107-0052 東京都港区赤坂1-14-3 電話：03-3583-0403

霊南坂スカウトクラブ主催

# クリスマス・忘年会の開催

12月9日(土) 午後7時から

毎年、12月初旬から中旬にかけて、スカウトクラブ会員同士の親睦とBS・GSリーダー達の慰労を兼ねてクリスマス・忘年会を行っています。

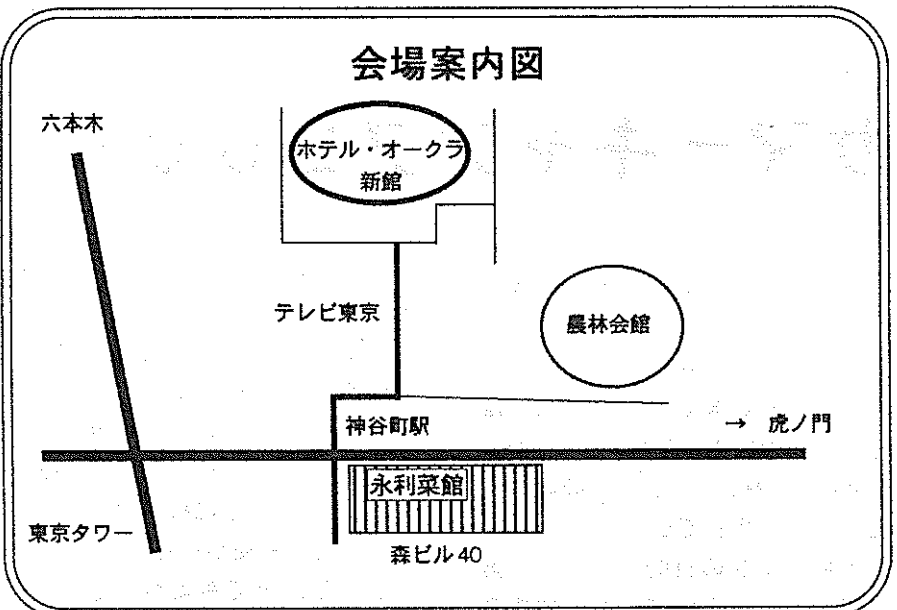
今年は、12月9日(土)の午後7時から営団地下鉄神谷町駅に近い中華料理「永利菜館」で行います。昨年はイタリア料理でしたが、今回は中華料理を中心となります。当日会場は貸し切りとなりますので、心置きなく歓談が可能です。

参加会費は3,000円ですが、現役リーダーは慰労という意味もあり1,000円となっています。このクリスマス・忘年会にはスカウトの保護者の方々にも参加を例年通り呼びかけています。

食事を楽しんでいただくと同時に自由に歓談を行うほか、恒例となっているビンゴ・ゲームなども用意していますので、是非多くの方々への参加をお待ちしています。

年末は種々行事があったり、仕事の都合などで予めの参加希望のご連絡ができない方もいると思われるかもしれませんが、料理の準備もありますので、できる限り下記に出席のご連絡をお願いします。

また、可能なかぎり多くの方々



に参加していただきたいと幹事一同考えていますので、当日に時間が空いた場合には、出席連絡をされていない方でも会場へ直接ご来場ください。

クラブ会員の方へのお願いですが、皆さんとビンゴ・ゲームなどを楽しく行いたいので、以下のような賞品の寄付が出来る方はお願いします。家にあっても使わないようなもの、商売で半端になってしまったもの、趣味でつくったもの、お店や商売の宣伝(飲食店であれば、ディナー券等)などの寄

付をお願いします。出来れば簡単なラップ(包装)をして、当日お持ちください。

スカウトの保護者の方でも上述のような賞品となるようなものがありましたらご寄付ください。

一人でも多くのご参加をお待ちしています。

☆☆☆ご出席の連絡先:

矢澤 宏子 宛

Tel: 03-3555-6375

当日(12月9日)の連絡先

場所・終了時刻の確認

携帯: 090-4919-2941 (河内)



写真は今年の夏に撮影したものです。「サマーキャンプ2000」(本文)とは関係ありません。

# サマーキャンプ2000

ボーイ隊 小崎 信

今年のサマーキャンプも山中野営場で行われました。メンバーは港15団の松本、青木、柏木、安田、神谷と、林田、池田、小崎の8人とリーダー2名でした。

このキャンプの目的は、技能賞獲得で東京連盟主催でした。技能賞取得はボーイスカウトにはとても大事なことです。僕はカヌー章とアーチェリー章に挑戦しました。

1年に一度のチャンスなので自分もふくめみんな非常にはりきっていました。僕はまずカヌーに挑戦しました。

カヌーは2人で乗るカナディアンタイプを使いました。カヌーはとても大変でしたがすぐに慣れて楽しめました。その日は、あっと言う間に過ぎて行きました。なかなか前に進まず苦勞しました。沈没

もして(練習で)とても勉強になりました。

次はアーチェリーに挑戦した。アーチェリーも僕にとっては、はじめてだったのでとても緊張しましたが、すぐに慣れて楽しみました。なんども、手に打ち付けてしまって、とても痛かった。

しかし、とてもよかったことはアーチェリーで、6回6射で、なんと、242点もとってしまったことで、これでアーチェリー章に近付いたのです。

実は、この242点は、とても凄いことなのです。(自分達にとっては)こうして、技能賞に、大きく近付いた自分達は、「思い出話し」を、土産に、自分達の家に帰ったのです。隊キャンプでは得られない他の隊との交流やスカウト技能の取得プログラムはとても楽しく、また来年も参加したいと思いました。

## 本の紹介

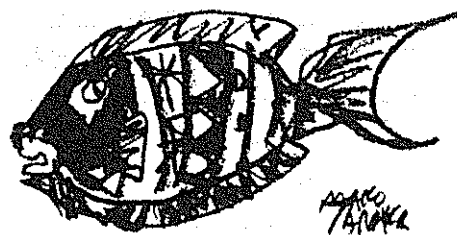
### 「生まれてきてよかった」 難波 絃一・幸矢 共著

本書は進行性筋委縮症患者の生命賛歌で、霊南坂教会の難波信義先生のご両親が書かれたものです。

初版は1983年で、随分前に読んだ記憶がありましたが、この度読み直し、人間らしく苦しみ、もがき、自問自答しつつ、前進していくご夫妻の姿が自分だったらどうなるだろうと、今だから、又、心に感じる事の深さを思い、目頭が熱くなりました。ご一読をお勧めします。

定価は1,000円。この本は市販されていませんので、ご購入をご希望の方は、難波先生に直接お申し込みください。

(塚田 記)



# 「古美術商って何?!」

永山 茂樹

## 『私達、美術商の仕事』

美術商と言われる人達が、どんな仕事をしているか、またどんなイメージがあるかを、友人・知人に聞いてみると、

「毎日暇そう。いつ仕事しているの?」「胡散臭い仕事をしてそう」「店の奥で、一日中ジーとお客さんが来るのを待ってる」???

と、あまりにも現実と友人・知人のイメージとの間がかけ離れていることに少しショックでした。

と言うわけで今回は、私達美術商の人達が、どのような仕事をしているのか話したいと思います。

どんな商売でも、一番大切なことは商品を仕入れてそれをお客様に売って利益を得るのですが、やはり私達も商品を仕入れることが一番重要な仕事です。

その仕入れを行うところが市場あるいは交換会と呼ばれるものです。この市場は業者だけの会員制で、一般の人が入ることは出来ません。ここでは、競り市で商品が売買されています。この市場は、全国のどこか

で毎日のように行われています。

また、この市場には色々な種類があって、古美術全般・書画・茶道具等々、専門分野ごとの市場もあります。お客様からの依頼で、今まで家にあつた不要な物の処分を頼まれたとき、その品物が何処の市場に出せば高く売れるかを見定めるのも私達の仕事です。

現在、私達美術商の多くは、店舗を構え商売をしている人が殆どですが、昔は、店を構えずに市場だけを回って生活をしている凄腕の人もいました。

現在でもそういった人はいますが、情報化社会の今なかなか難しいようです。そして今では、インターネットを使って美術品を売買している人達も多くなってきました。今まで閉鎖的と言われていた美術業界もこれからはますます変わって行くでしょう。

さて我々には、まだまだ大事な仕事があります。それは「アフターケア」です。古い焼き物や掛軸など、また、それらを入れる箱などは、長い年月の間に少しずつ傷んできてい

ます。それらはいつ壊れるとも限りません。これらにトラブルが起きたときに私達の出番です。例えば、茶碗や箱が壊れたときは、私達が信頼している修理屋さんや箱屋さんに持っていき、直したり作り直したりします。売ったら売りっぱなしではなく、常にお客様の身になって考えて行動しています。

世間では、「暇つぶしに骨董屋でも行くか」なんて言われていますが私達は毎日、忙しい日々を送っています。でもお客様の喜んでる姿を見ると、美術商冥利に尽きる思いがします。

私達の仕事は、表面的にはあまりぱっと下仕事ではありません。しかし、私達は次の世代に文化を伝えていく黒子のような仕事に非常にやり甲斐を感じています。これからも、素晴らしい美術品と、素晴らしい人達に巡り会えるよう頑張っていきたいと思います。

それと「鑑定」これは私達の仕事ではありません。皆さんは、たまに店に鑑定して下さいと持って来ますが、だいたい年代・相場はお教えします。鑑定はそれを行える人、あるいは組織がほぼ決まっているので鑑定が必要な場合は、そのような人や組織に依頼して鑑定や「鑑定書」の作成をお願いします。

(次号へ続く)

◎ 前号でお知らせした『伊万里について』を掲載します。長文なので分割し残りは次号に続きます。

\*\*\*      \*\*\*      \*\*\*

江戸時代に入って窯業は素晴らしい発展をしましたが、桃山時代、茶道の隆盛によって窯業はにわかに勃興しました。優れた作も生まれた文禄・慶長の役(十六世紀)を機に朝鮮半島の陶工が多数渡来し、九州を中心に諸所に窯が築かれるなど、その基は出来つつあったといえます。

その発展は画期的なもので、磁器の創始、陶磁器の赤絵の成功と相次ぎ、進展も目覚ましく、本格的な窯業が展開したのでした。

大まかに俯瞰すれば、以前から信楽・常滑・丹波・備前・萩などにはありましたが、九州有田に起こった磁器-柿右衛門の現出した色絵磁器は、柿右衛門・古九谷・鍋島・古伊万里を中心に、にわかには九州窯業の盛況を来たし一方、京都に於いても仁清による色絵磁器の大成によって、陶芸は華々しく開花し、その影響は近畿・中国・四国の諸窯に及びました。

江戸時代の窯業発展は、まず磁器の創始によって扉が開かれました。それは文禄・慶長の役に従軍した九州の諸大名が連れ帰った、朝鮮半島陶工の一人李参平という者の手によるものです。李参平は、佐賀藩の国老・多久長門守安

順によって日本にきましたが、はじめは佐賀城外の唐人古場で陶器を焼いていました。半島では既に高麗時代から磁器が作られており、文禄・慶長頃の李朝時代にはかなり普及していたことから、磁器を作る原料・技法については知っていたと思われます。彼は、陶器により磁器焼製を志し、その原料たる磁石を探して藩内を踏査し、有田川の上流の泉山にこれを発見しました。1616年(元和2)彼は、多久領内の帰化半島人20名ほどを有田に呼び、上白川の天狗谷に窯を築きました。ここに初めて白磁・染付が焼き出されるに至ったのであります。この期の製品は、碗・皿・小鉢・小壺・徳利の類で、胎は

分厚く、形は高台が小さく、壺などは丸作り、文様も、黒味を帯びた藍色の染付で、柳・葡萄・唐草・小禽などが粗奔な筆で描かれています。もともと半島工人の作なので、形・作など全てにおいて、李朝陶磁に似ています。歪み、亀裂、窯傷のある物が多いのですが、創業期で、しかも陶工達としては、異郷での仕事でもあり、その苦勞のほどを偲ばせます。現在では、初期伊万里と呼ばれています。4・5年を経て、窯もいくつか新しく開かれ、従来の陶器窯で磁器に転向するものも現れてきました。製品も在来の陶器窯での絵唐津・磁器窯の李朝風のものを以外、舶来される中国明末磁器の影響を受けたものも見られるようになり、文様も唐草・唐花・菊・牡丹・竜・虎・兎・唐人物から、福・喜・寿・日・月といった文字などと、その種類も多くなったのです。一方、伊万里沖の回船問屋などもこれらの製品に関心を深め、商品として取り引きするようになりました。1628年(寛永5)には鍋島藩が陶業振興とし、岩谷川内窯を藩の御用窯的なものに指定するようにもなりました。こうして1637年(寛永14)前後

までには、大皿・大壺の類も焼出するぐらいに技法も一段と進歩しました。また従来の李朝風の絵文様も有田では姿を潜め、中国的な構成的絵文様が多く描かれ、その和様化したものも見られるようになったのであります。この様に、有田にて磁器焼製が盛んになってきた頃、赤絵すなわち色絵磁器が出現しました。磁器に於いてはこれが始めてで、磁器創始に続き大展開を来すことになりました。その色絵磁器は、有田の陶工酒井田柿右衛門によって成功を見たことは、既によく知られていると思います。赤絵創始の頃の作がどのようなものであったかは、中国の法を学び、また当時中国磁器が多数輸入されていたことから、その彩磁に似たものであった事は想像されます。当時輸入された中国の彩磁は明末の赤絵・呉須赤絵の類でした。前者は明末の天啓一崇禎(1621-44)に景德鎮で焼かれ、奔放な絵付けの粗雑な作であります。その酒脱な趣が茶人に大いに愛好されました。後者は中国の福建・広東方面で焼かれ、粗雑な磁胎に赤・青・緑で放胆な絵付けをしたもので、共に我が国に盛んに輸入されました。し

かし、柿右衛門窯の遺品中、明確に当初のものとは指摘できるものはなく、これらと直接結びつくような作も見あたらないのです。ただ菊唐草文鉢(東京国立博物館蔵)などは濁手の初期的なもので、文様の表現、潤いのある赤釉など呉須赤絵と酷似しています。また、早くから南方に輸出されていたので、柿右衛門窯そのものの産であるか否かは別としても、柿右衛門の赤絵のはじめ頃の作は、少なくともこれに似たものではなかったかと見られています。とにかく初代の赤絵創成期以後四代(延宝7年没)頃までは、彩絵も明末彩磁の濃い影響、顔料発色の不完全、赤絵焼成の不安定から、その改善に努力しました。初代の晩年(寛文6年没)頃には、いわゆる濁手と呼ぶ乳白色の素地や、あっさりした絵付けのものも一応は出来たと見なされています。世に柿右衛門と呼ぶ作には、壺・鉢・皿・蓋物・德利・置物があり、乳白の素地に諸色で絵付けしたものと、半透明の染付磁に絵付けしたいわゆる染錦手とがあります。

(以下は次号へ続く)

## アメリカのキャンプ便り

# ワットの手紙

パパとママへ

もしも、テレビで洪水のことを見て心配するかもしれないので、僕らのスカウトマスターが全員両親宛に手紙を出すようにいったので書いています。僕はOKです。唯、テント一つと寝袋2つが流されたくらいです。幸運なことに、僕らの誰一人溺れることはありませんでした。何故ならば、それが起きた時には僕ら全員起きていてチャッドを探して山に居たからです。そうだ、チャッドのお母さんに電話して彼はOKだと伝えてください。彼はギブスをしていて書けないからです。

僕は救難救助隊のジープの1台に乗込まねばなりません。それはとても面白かったヨ。僕らは全ての照明器具を使わなければ、あのような暗闇の中ではきっと彼を見つげ出すことは出来なかったと

思います。誰にも言わずに一人でハイキングに出たことについてスカウトマスターのウェップ氏はチャッドを厳しくしかりつけました。チャッドは、彼はウェップ氏に言って行ったというのですがウェップ氏は火事騒ぎの最中で、たぶん聞こえなかったのかもしれませんが。

パパ達は燃えているところにガソリンを入れると、プワッって大きく燃え上がるって知っていた？ 湿っている木はそれをやってもなかなか燃えないんだけど、僕らのひとつのテントはそれで燃えちゃったあ。それと僕らの服の一部も。きっとジョンは彼の髪の毛が元のように生え揃うまでチョットおかしく見えるよ。

スカウトマスターのウェップ氏の車が直れば、僕らは土曜日に家に帰ります。それは彼のせいでは

なく故障です。ブレーキは僕らがそこに駐車するまでは問題なかったからです。

スカウトマスターのウェップ氏は車が古いからブレーキに故障が起きてもおかしくないと書いています。だから多分故障修繕の保険に彼の車が入れなかったのでしょうか。でも彼の車を僕はカッコいいと思っています。彼は、それが暑かるうが僕らがそれを汚したとしても全然気にしませんし、時々、荷台にも僕らに乗せてくれます。だけど、10人も乗ると、とても暑くなります。

彼は僕らをトレーラーに乗せてくねくね道ドライブに連れて行ってくれます。もっともハイウェイパトロールの警官に止めるように言われるまでですが。スカウトマスターのウェップ氏はかっこいい人です。心配しなくてもいいよ。彼は腕のいいドライバーだからです。実際に、彼はコーディーにどうやって運転するか教えているからで

すが、ただ彼に運転させるのは山道だけで、しかも全然他の車が通らない場所だけです。もっとも、僕らが見るのは材木を積んだトラックだけけど…。

今朝、皆が岩から湖に飛び込みをやって泳ぎました。スカウトマスターのウェップ氏はギブスで沈む心配をしているチャッドと泳げない僕にはやらせてはくれませんでした。だけど、彼は僕らにカヌーで湖の横断をやらせてくれました。それはとても素晴らしいものだったヨ。パパ達も来れば洪水で沈んだ木々が水面下にあるのを見ることができると思うヨ。

スカウトマスターのウェップ氏は他のスカウトマスターの一部にみられるような気難しい屋じゃない。彼はたとえ救命胴衣を無くし

てしまってもそれほど厳しくしかったりはしません。彼は多くの時間を車修理に必要でしたので、僕らはできるだけ彼に迷惑の掛からぬようにしています。どんなふうには想像してみて？

僕らは全員救急技能章に受かりました。デーブが湖に飛び込んだ時に、腕を切りました。僕らは止血帯がどのような働きをするかを実際に見るはめになりました。それに僕とウェードは吐きました。スカウトマスターのウェップ氏はたぶん鳥の食べ残しの悪くなったものによるものだろうと言いました。彼は囚人が病気になったのは刑務所でこのような食べものでそうなったとも言いました。僕は彼が出て来て、僕らのスカウトマスターになったことをうれしく思ってい

ます。彼は物事をどのようにすればより良くやり終えることができるかを自分の為の事をやっている時間も考えているとも言っていました。

僕はもう行かなくちゃ。僕らは手紙を出すのと弾丸を買うために町に行きます。何も心配しないでください。僕らは元気です。

愛とともに ワット



【注意】 この『ワットの手紙』は木田節子さん（霊南坂SC海外幹事・シアトル在住）を經由して、アメリカのスカウト関係者から送付されてきたものです。

これを送ってくれたのは58年間もスカウト活動をしているというJohn Hornerという方です。彼は日本の富士スカウトにあたるイーグル・スカウトで、従軍した時は看護兵、その後ミシガン市で警察官、サンディエゴ市で消防署長カリフォルニア州のカラベラス郡の救護隊兼務などの経歴です。

このようなスカウトに関するいろいろなインフォメーション（情報）がスカウト関係者、特に指導者層の間でインターネットで回されているとのことです。

この手紙の内容は「事実」ではないことに特に留意ください。あくまでも作り話で、初めて両親から離れてうまく行動できなかつた子供たちの一部がこのような手紙を両親宛に書くことが多々あるとのことです。

特に面白く出来た「作り話」をお互いにインターネットを經由して指導者同士の間で送りあっている

ようです。

日本では、電話代やインターネット接続の料金がアメリカに較べて割高なためと、キーボード・アレルギー、コンピューター・アレルギーなどが人によってあり、スカウト関係者間での連絡や情報のやり取りなどはまだ少ないようですが、そのうち日本でも好き嫌いに関わらず電子メール（E-mail）でやり取りすることになるでしょう。

日本では、キャンプ中に両親宛に手紙を書かせる習慣はありません。（少なくとも小生がいたころの霊南坂スカウト時代では）アメリカではキャンプ期間中頃でスカウトに両親への手紙を書かせているようです。

アメリカでは日本に較べてキャンプの期間が割と長いことと関係があるようで、両親の心配する気持を和らげる目的もあると思われます。

しかし、このような「作り話」を許容することはアメリカ人の持つ創造性と無縁ではないような気がします。

日本でこのような「作り話」の手紙をまるで本当のような事柄のよ

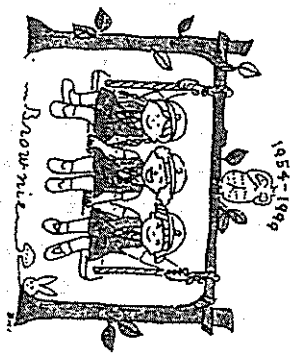
うにして両親に送ると、多分両親は驚愕するのではないのでしょうか。帰った時に叱りつけてしまうような状況でしょう。

アメリカではこのような手紙を受け取った両親は楽しみながら読むのでしょうか。作文には違いないのですが、面白いストーリーを創りだすことに価値を認める社会だからです。

最近、日本でも問題となっている学級崩壊、不登校の子供、孤独な子供や孤独を感じている子供のために自然に触れるキャンプに参加させるスカウト活動を行っているとのことです。

キャンプに参加するスカウト達のほとんどは健全な子供達ですがそのようなキャンプには、少なくとも一人はそのような学級崩壊や不登校、孤独な環境などの可哀想な子供を連れていくようにするのがアメリカ指導層の当面の役目になっているとのことです。

本文の翻訳は意識で、また、これを送付したホーナー氏との連絡（事実関係確認）や経歴等の一部割愛や翻訳は河内の責任で行ったものです。



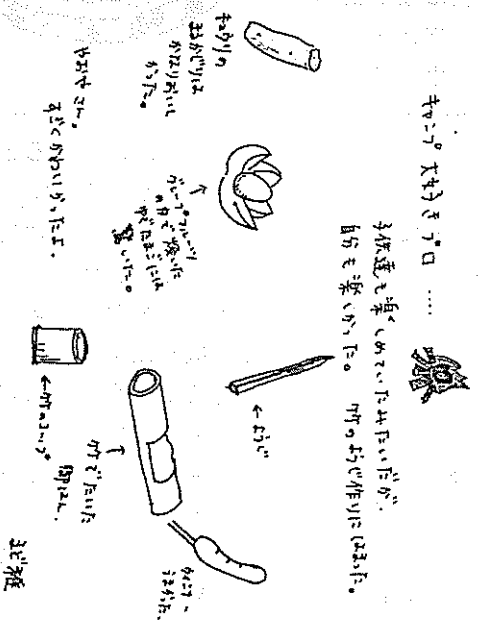
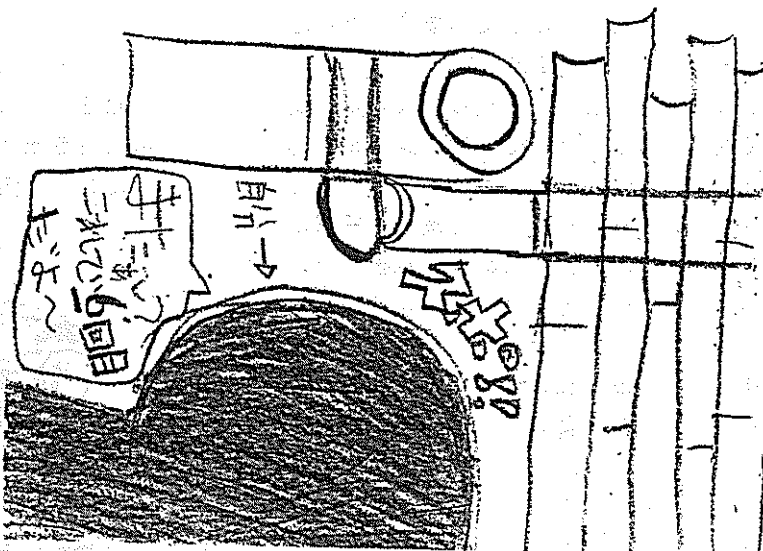
1954-1969

# 2000 木の Star-CAMP

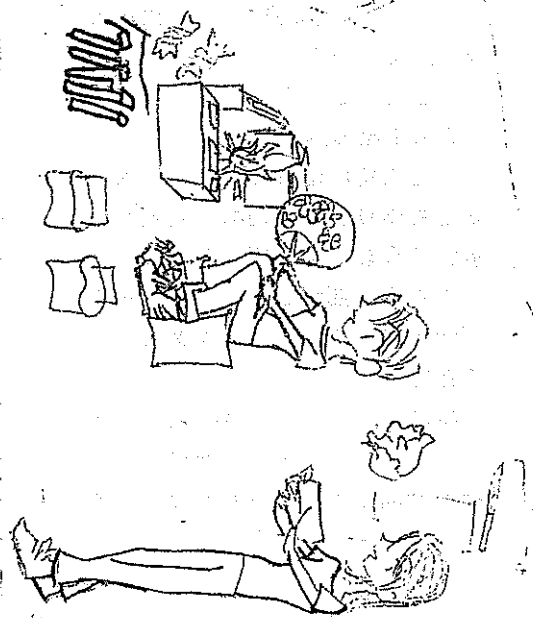
今年のキャンプは、少しづつ、山梨県の  
本栖湖青少年自然センターキャンプ場で、  
3泊4日の野営キャンプを行いました。  
今年のキャンプのテーマは、「キャンプ大好き!!」。

キャンプから帰って、一人2人、キャンプの感想を  
絵に表わしました。

1日目 記事 竹を使って食卓テーブルを作り  
たのしみ、完成するまでが難しかった。  
4日目 記事 竹を使って食卓テーブルを作り  
たのしみ、完成するまでが難しかった。

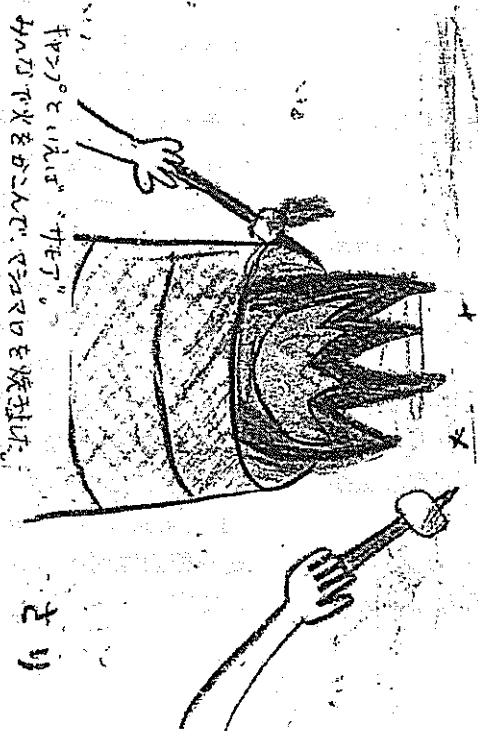


楽しかった、



お料理。火おこしは大変だけれど、楽しかった。

たのしかった、



さび

# ＜スカウト運動の使命＞を考える

杉原 正

あと1ヶ月余りで新しい世紀を迎えます。今世紀の初頭にイギリスで始まったスカウト運動も間もなく100年を迎えようとしており、世界では150を越える国で約2800万人がこの運動に参加しています。

21世紀を迎えるにあたり、各国スカウト連盟が加盟している世界スカウト機構は、昨年南アフリカ・ダーバンで開かれた第34回世界スカウト会議で「スカウト運動の使命声明」を協議し、採択しました。(別稿)

21世紀に向けてのスカウト運動の役割を確認することになりました。

「スカウティングとは何か」「スカウティングは誰のためか」を問い直し、スカウティングが単なる遊びやリクリエーション、またプログラム活動ではなく、「教育」であること。特に Education であること (teach、いわゆる“教える”ことではなく、引き出すことの「育てる」こと) を再確認しました。

また、スカウティングは「青少年の、青少年による、青少年のための運動である」ことを確認して、大人のための運動になりがちな方向に警鐘を鳴らすことにしました。

このことを踏まえて「スカウト運動の使命」が21世紀に向けての青少年の教育に関わるスカウト運動としての声明が提起されました。

これを受けて、去る11月3日から5日間オーストラリア・メルボルンでアジア太平洋地域第3回スカウト連盟首脳会議(トップ・サミット)が開催されました。

私は昨年の世界スカウト会議に出席する機会を与えられ、またこの場に俄に引き続き首席代表として参加することになりました。参加してみて改めてこのスカウト運動の重要性を再認識しました。

アジア太平洋地域には23ヶ国が加盟しており、今回は21ヶ国が出席して、21世紀にむけたスカウティングへの取り組みが真剣に協議されましたが、その中心は「スカウト運動の使命」をいかに各国のスカウト活動の中に活かしていくかでした。

この使命の中心は「ちかい」と「おきて」の元となっているスカウト運動の原理ととなっている＜神へのつとめ＞＜他へのつとめ＞＜自分へのつとめ＞が持つ価値観を醸成することに注目しなければなりません。

21世紀を迎えるこのときに＜スカウト運動の使命＞が声明として提言されたことは、日本におけるスカウト運動をどのように展開していくか、の指針にもなるものとしてしっかり受け止めなければならない内容になりますのでご紹介しました。

この使命の後段に示されているインフォーマル教育に関しては今後の日本の教育全体に関わる内容ですので、次の機会にご紹介したいと考えています。

\*\*\*      \*\*\*      \*\*\*

## スカウト運動の使命

声明

1999年7月

南アフリカ・ダーバン

スカウト運動の使命は、スカウトの「ちかい」と「おきて」に基づいた価値体系をとおして、人々が個人としての自己実現を果たし、社会において建設的な役割を果たすことができる、よりよき世界を築くのに役立つよう、青少年の教育に貢献することにあります。

この使命は、  
・青少年をその成長段階にある期間を通して、インフォーマル教育

の過程に関与させること。

・青少年が自主的で、支えとなり、責任をとり、明確な態度をとる人間として成長するにあたって、一人ひとりが主体的に関わる者に育つようになる固有のほうほうを用いること。

・スカウトの「ちかい」と「おきて」に示されている、精神的、社会的、かつ個人的な原則に基づいた価値体系を確立するよう青少年を支援することによって達成されます。



アフリカを縦断する電線敷設の夢をベーデン・パウエルに語るセシル・ローズ (1896年、B-P画)

インド・スカウト連盟

## シルバーエレファント章 (銀の象章)

授与

左記の第3回アジア太平洋地域スカウト連盟首脳会議(トップ・サミット)において、各国の参加者の前で、インド・スカウト連盟から「シルバー・エレファント章(銀の象章)」が杉原正さんに授与されました。

杉原さんの弁によれば「国際的には何もしていませんが、日本のスカウト運動がアジア太平洋地域にさまざまな形で貢献していることが評価され、その代表として、私の日本連盟総コミッショナーとの立場に対して授与されたのではないかと思います。日本人としては初めてという光栄を受けました」とのことです。

## 計 報

スカウト関係での計報をお知らせします。生前の故人あるいはご家族と親しくされていた方もいらっしゃると思われまますのでお知らせします。

●与謝野馨さん、阿部文子さんのご母堂道子さんが10月31日に逝去されました。通夜は11月6日、葬儀・告別式は同7日に行われました。

●大島啓義さんの娘さんが逝去されました。大島さんはかなり力を落とされているとのこと。同輩の方々へ励ましをお願いします。

●三沢君への追悼文

21世紀まで2ヶ月弱で迎えようとするこの時、三沢キョウヨウ君が11月初めに逝った。このコンピュータでは漢字表示（キョウの字は白が3つ、ヨウは容）できないのでカタカナでの表示になるが、彼も少しは21世紀を覗いて見たかったのではないかなと思う。

彼は同じ永田町小学校で同期生。筆者が当時東京4団のカブに入隊した時にはすでに彼は入隊していて、そこから親しく付き合うようになり長年の付き合いとなった。

カブの頃は古株だったせい活発で、楽しそうに毎週来ていたのだが、ボーイになってからは中学でスキー部に入り、スカウト集会には出て来なくなってしまった。霊南坂教会の日曜学校へは時折顔を出し、高校1、2年生頃は頻りに顔を出したので、礼拝後にたびたび一緒に遊んだことがある。

美大に行こうと思い、高校3年の2学期に某美術学院の夜間に行くと、そ

こに彼がいたので非常に驚いたことがある。二人とも結局美大には行かなかったが…

筆者がサンフランシスコで暮らしていた頃に遊びに来たこと、帰国してから一緒に小学校同期会の幹事をやったことを懐かしく思い出す。多忙で同期会には出席出来ず、6年程前に同期会の幹事会が彼との最後の出会いとなってしまった。

ここに三沢君の冥福を祈りたいと思います。（河内 記）

## 未入会の方々へのお願い

霊南坂スカウトクラブは、現役スカウトの支援とクラブ会員の親睦を目的として設立したものです。入会はボーイスカウト港第1団（旧称：東京第4団/4隊）とガールスカウト東京第4団のスカウトであった者やその保護者（団委員・育成委員等を含む）、関係者を対象としています。

できる限り、所在が判る人達へ会報を送付してスカウト活動の現状や協力を呼びかけたり、古い仲間の消息などを伝える努力を続けていますが、皆さんの若干のそれぞれの手助けも必要です。

スカウトクラブへ入会するかしないかは自由です。ただ、スカウトだった仲間の全員の所在が判明しているわけではありません。同窓会・同期会などの名簿でスカウト仲間（先輩・後輩を問わず）が判りましたら、下記にご連絡をお願いします。

## 編集後記

今回アメリカのボーイスカウト関係者からの情報を掲載しましたが、これもインターネットがあったからです。

21世紀の日本も好むと好まざるに関わらずインターネットが生活に浸透していくことになるでしょう。

ただ、キーボード・アレルギーであるかどうかは将来的には心配する必要はなくなります。かなり音声での入力（コントロールも含め）できるようになるので、キーボードが打てないからというのは問題にならなくなります。ただ入力手段として簡便で安価でもあるキーボードはここ数年はなくなることはないと思われまます。

ただ、インターネットは通信道具でそれを使うのは人間ですから、ITといっても結局は、それを使う人間が問題です。

注意しないと、どのようなプログラムかが見えないため、犯罪の落とし穴に落ち込む可能性があります。知らない間に国際電話に繋がれてしまい、高額な電話料金の請求が来てから気づくといったことがあるようです。インターネット・オークションでも代金だけとって商品を送らないといったこともあり、相手に注意しながら利用することがまだまだ必要です。（河内）

## E-mail / 電子メール

スカウトクラブの会報は年に3回、あるいは多くて4回となっています。

3～4ヶ月の間に事柄によってですが、できるだけいろいろなことを皆さんに早くお知らせしたいと幹事会では希望しております。

そこで、現在E-mail Addressをお持ちの方は下記まで電子メールでアドレスをお知らせください。会員・未加入会員を問いませんのでお気軽にご連絡ください。（河内宛）

連絡先： E-mail Address  
riverys@fancy.ocn.ne.jp

## 意見・寄稿を募集中

広く皆様のご意見や寄稿を募集しています。ビジネスに役立つ情報交換を希望される方からのものも掲載していきますので共有できる情報を左記の幹事宛に送付ください。

## 霊南坂スカウトクラブ連絡先

入会申込・問合せ等：

（郵便）107-0062 東京都港区南青山7-11-5 日下部 宛

（ファックス）03-3400-0399 （電話）03-3400-0331

会費・ご寄付等：

（郵便）105-0001 東京都港区虎ノ門1-19-5 杉原 宛

（電話／ファックス）03-3501-3998

振込講座番号：霊南坂スカウトクラブ

（郵便局経由）00160-1-615237

通信・ご希望・ご意見等：

（郵便）150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-303 河内 宛

（ファックス）03-3464-8276 （電話）090-4919-2941

（E-mail）riverys@fancy.ocn.ne.jp